



月刊 佐賀県e-sports協会 eスポーツ通信 vol.1

創部3年!佐賀学園「ゲームクリエイター部」

eスポーツ元年と呼ばれた2018年に立ち上がった佐賀学園「ゲームクリエイター部」。佐賀県では珍しい公式の高校eスポーツ部で、自身もゲームをよくプレイする数学教師、松下雄紀先生(30)を顧問に、部員たちはプレイヤー・クリエイターの両面で一流を目指している。3年めの今年は、事務の吉谷あゆみさん(25)もデザイン指導の顧問に加わり、活動はいよいよ充実。8月には高校生対象の、国内最大規模のオンライン大会に出場し、創部以来の実績を上げようと熱がこもる。副部長で「リーグオブジェント」大会に出場する西山航輝さん(17)は、「3回戦突破が悲願」と謙虚に語るも松下先生からは「優勝してこい」と発破をかけられ照れた笑み。「9月には引退するけど、引退した後プロを目指したい」。部の知名度アップも背負い、夏に懸ける。



協会ECサイト 月商1千万円超!

2020年3月に開設した佐賀県eスポーツ協会が運営するECサイト「SeAEC」が月商1千万円に到達した。同サイトは法人会員の㈱ココ・コーラボラズジャパンの協力の支援サイトとして誕生し、同社の飲料製品を始め、ゲーミングチェアなどを取扱う。主に「eスポーツ」で検索する業界のフリーク達に愛され、次第にネット上で浸透した。今後はeスポーツ関連商品をさらに拡大し、協会活動の原資とすると共に、eスポーツアイテムの普及に貢献していく。

さがeスポ 「この人」

健康食品、基礎化粧品製造・販売「株式会社とーと」(福岡県那珂川市)の子会社として誕生したeスポーツ業「CS entertainment」の新社長、玉井一樹氏(29)。実況者、配信者のマネージメントや、大会運営などを手掛ける。玉井氏は高校卒業後、飲食店スタッフで生計を立てながら「荒野行動」のプレイヤー、実況者として活動、名を馳せ大会運営でも活躍した。eスポーツへの情熱に共感し、社長へ大抜擢。「国内のeスポーツに携わる若者はハイパフォーマンス。VR、AR、AIなどの先端技術を駆使して活動する人材を創出していく。」と、その意気込みを語る。

CS entertainment
玉井一樹さん(29)

1990年11月生まれ、福岡市出身、家族は妻・子の3人家族、趣味は旅行とゲーム。

さがeスポ 「アイテム」

佐賀県eスポーツ協会が監修し、佐賀発のゲーミングチェアとしてeスポーツ市場に名乗りを上げた、(株)東馬(神崎市)の「SeAGA(セアガ)」シリーズ。SeAGAとは、「SAGA」から世界に羽ばたく「e」スポーツギアブランド、という造語です。オフィスにも浸透できる「01」、メカニカルなデザインの「02」、機能をアップグレードした「03」は各機、全国のeスポーツプレイヤーやリモートワーク需要に後押しされ、発売2ヶ月で2,000脚を出荷。国外の市場も見据え、さらなるアイテム追加を見込んでいる。社長の東馬真介氏自ら開発をディレクションし、「ゲーミングデスク他SeAGAとセットで揃える家具も追加していきたい」と展望を見据える。



ゲーミングチェア
SeAGAシリーズ

eスポーツ通信 創刊特別企画



事務局長の「ゲーム論!」
#1 鶴田英司CEO(大町自動車学校)



大町自動車学校
鶴田英司CEO

プロフィール

大町町出身。外資系コンサルティング会社に様々な組織の改革に携る。2016年より大町自動車学校の経営に参画。自社の経営改革を行いながら、地方創生や地域のキャリア教育などに取組む。

佐賀県eスポーツ協会事務局長が、eスポーツ産業に携わる様々なキーマンの哲学を尋ねる不定的連載「ゲーム論」。第1回は、佐賀県のeスポーツ称号大会「勝島」に創立時からスポンサーとして関わり、自身も大会を開催しながら佐賀のeスポーツ文化を育てる大町自動車学校の鶴田英司CEO(46)。イベント、プレイヤーの両視点から、激論2時間、佐賀のeスポーツに提言をいただいた。(全文は協会HPに掲載)

中島 eスポーツは二〇一八年が「元年」と呼ばれました。協会が立ち上がったのもその頃です。続く二〇一九年は元年以上の熱気があり、多くの産業が入り込んだという印象があります。二〇二〇年は成熟期ですね。撤退する産業もある一方eスポーツ事業者としての地位を定着させた企業も見られます。ここまで鶴田さんのeスポーツの印象はいかがですか。

エンジョイ勢がeスポーツ楽しむ仕掛けを

鶴田 そう。せっかくゲームの知見がある人たちが集まっているんだから、イベント会場にゲーミングチェアを取り入れるなどの工夫が必要だと思います。今はeスポーツと呼ばれてトップの人たちが腕前を競う形で盛り上がっていますが、それはピラミッドの頂点であって、圧倒的多数は普通にゲームをプレイして楽しむ人たちですね。この人たち



中島 付加価値とビジョン。

鶴田 「何となくお金になりそう」「話題に乗っかろう」という気持ちが入ってきている人も多いような気がしますが「eスポーツを通じて世の中をもっとよくしていきたい」とか「もっと付加価値を創っていきたい」という、というようなビジョンを持ったリーダーがあまりいないように思います。でも長く成長していくためにはそういった人たちが必要だと思うんですね。

ゲームは「問題解決の鍛錬」「美の体験」

鶴田 ゲームにはビジネスパーソンにとって効能があると考えています。死にゲーのような根強いトライ＆エラーが必要なゲームは起業に必要なマインドセットが培われます。どうしてもクリアできない時はインターネット上で情報取寄せをしていくことになるんですけど、攻略動画などが自分に合うとは限らない。そこで自分と向き合う時間が必要になるんです。自分とは何が

中島 ご自身もよくゲームを遊ばれるそうですね。

鶴田 そこは「人」ですよ。大会で実際に見てみたいと思うスター選手。これが必ずしも佐賀にいないでもないかもしれない。ただ、そうしたスター選手が集まる魅力的なイベントをどれだけ作っていけるか。佐賀の目指すところはまさにそこではないでしょうか。

中島 ああ、よくわかります。攻略動画見ても全然同じように出来ませんもんね(笑)。やがて自分なりの進め方を見つけていくんですが、死にゲーはそれが揃うまでの序盤が本当にきついな(涙)。

鶴田 これはねえ、10個選びましたよ(笑)リストにして、1つ1つじっくり解説いたします。ぜひ動画で皆さんにご紹介しましょう。



(Youtube動画に続く。対談全編と鶴田社長オススメのゲーム10選はQRコードから。)

中島 取っておきの「美」と「起業体験」が出来る、鶴田さんおススメのゲームを教えてください。

鶴田 その通りです。というか、世の中そんなもんです。起業も取り組み始めが一番キツイので、それから、膨大な開発費が投入されたオープンワールドゲーム等は現代の新しいアートと考えると、ゲームを通して感性を磨くことはビジネスパーソンに役立つと思います。



佐賀県eスポーツ協会 スペシャルショップ



このECサイトのご利用はこちらのQRコードからご利用ください

大町自動車学校
大町校 / 鍋島校

早く免許を取って夏休みを満喫するなら

最短14日で免許がとれる

ハイスピードMAX